

伊勢湾貧酸素情報（第 4 報）

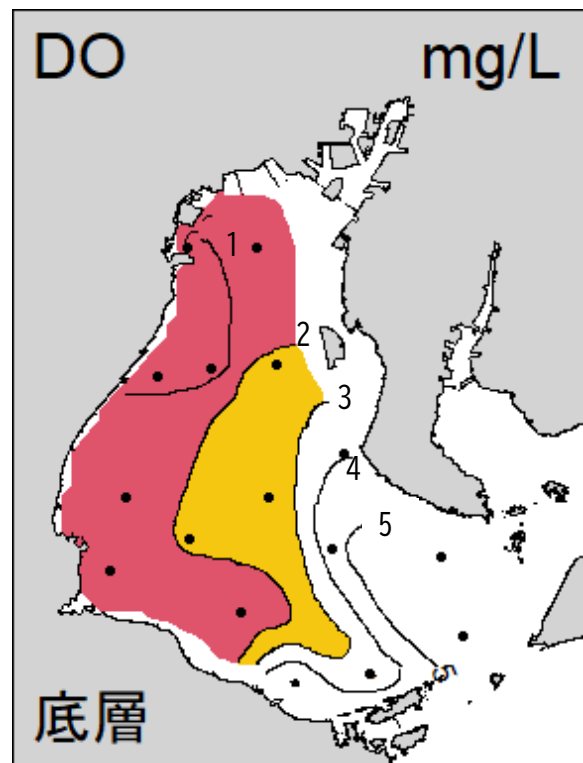
三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

三重県側の広範囲で 2 mg/L 以下の貧酸素水塊が確認されました。

9 月 3 日の調査結果

9 月 3 日の漁業調査船「あさま」の浅海定線観測によると、水温は表層で 27.0～30.8℃、10m で 21.3～22.7℃、底層で 16.9～23.7℃の範囲にあり、平年と比べて表層はかなり高め、10m、底層共に低めとなっていました。湾口部底層では 16.9℃と 1972 年の観測開始以来同月の最低水温を更新しました。

DO（溶存酸素濃度）は表層で 5.8～8.4 mg/L、10m で 0.2～6.4mg/L、底層で 0.6～5.5 mg/L の範囲にあり、平年と比べて表層はやや低め、10m は低め、底層は湾中央部を中心にやや高め、北部三重県寄りで低めとなっていました。



底層貧酸素水塊分布図

先月同様、湾口～湾中央部にかけて、湾の東側の海底を、低温・高塩分・高酸素濃度の外海水が強く進入し、貧酸素水塊が中層に持ち上げられるとともに、三重県沿岸に押し寄せられています。また、中層の貧酸素水塊は沿岸域まで達している可能性があり、貝類資源などに影響を与えることが懸念されます。今後も高い気温が予想されており、外海からの酸素供給が失われれば貧酸素水塊が拡大する可能性があります。引き続き貧酸素水塊の動向に十分に注意してください。